



みくびだより

発行 御首神社社務所

御挨拶

拜啓 師走の候、皆様方におかれましては愈々ご健勝の事とお慶び申し上げます。

去る十月二十七日、三笠宮崇仁親王殿下（ごきぎみ）が薨去されましたことは、誠に傷ましき知らせでありました。謹んで哀悼の意を捧げ殿下の御霊の御平安をお祈り申し上げます。

天皇陛下におかれましては、八月八日「象徴としての義務について」我々国民にお言葉を述べになりました。お言葉には、これまで日本国憲法の下での天皇としての在り方と、伝統を継承しながらも現代に生かし、いかに人々の期待に応えて行くかを日々模索しつつも、国の象徴であると共に国民統合の象徴でもあるとして、我々国民と常に寄り添い、国民の安寧と幸せを祈ってこられた事を幸せであるとお述べになりました。

しかしながら、ご自身のご高齢と二度の大手術による体力の衰えも感じておられ、この先その重要な役目を果たして行く事が困難になる事、強いては国民の暮らしに影響が及ぶ事を強く懸念なされ、且つ皇室がどのような時にあっても国民と共にあり、相たずさえてこの国の未来を築いていけるよう、そして象徴天皇の務めが常に途切れることなく、安定的に続いていくことを偏に念じておられると、お言葉を締めくくり国民にその思いを委ねられました。

このお言葉を受け、目下国を挙げての議論が多方面で進められている最中ではありますが、天皇皇后両陛下のお気持ち幅広く国民に伝わり深く理解されますことを強く願います。さて、当社では新年を清々しく迎えられますように、万全の正月準備を進めております。皆様方には、御首の大神様の御神徳を漏れなく拝受され、愈々の御健勝と御多幸をお祈り申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

宮司 三浦 篤

祭事報告

西宮神社（相殿社）例祭

七月十七日

兵庫県西宮市に御鎮座されます西宮神社より御分霊を賜り、本殿に向かひまして左側にお祀りされております。

定刻、宮司以下祭員にてご例祭を滞りなく斎行致しました。

末廣稻荷神社（境内社）例祭

八月七日

境内の東、朱鳥居をくぐり参道奥に鎮まります末廣稻荷神社の例祭が、恙なく斎行されました。本年も参道には、氏子地区の子ども等が多く、行灯の絵を奉納し、参道を賑やかに彩りました。



夏越大祓

八月七日



末廣稻荷神社例祭斎行後、引き続き境内の遥拝所前にて執り行われしました。神事は、神職による大祓詞奏上の後、被つ物（はらえつもの）を八つに取り裂き、皆様の罪・穢が託された人形を忌火にてお焚き上げ致しました。また、茅の輪くぐりは夕方まで行われ、大人から子供まで多くの参拝者が茅の輪をくぐられました。

長寿祈願祭

九月十五日

旧敬老の日当たる十五日に、宇留生地区の長寿会連合会の皆様をお招きして、益々のご健康と長寿をご祈念いたしました。

神明神社（境内社）例祭

十月十七日

本殿の北西に鎮まり、天照大神をお祀りしております。例祭当日の早朝から清掃を行い、天候を配慮しまして、定刻より些か早めの斎行となりました。

崇敬会大祭

十一月三日

一年に一度行われる、本神社崇敬会のための大祭で、会員の皆様の無事隆昌繁栄をご祈願いたしました。祭典前に小雨が降るなど、やや天候が不安定でしたが、祭典開始時刻には何とか天気も持ち直し、無事斎行致しました。当日は県内外より多くの会員の方々が多数ご参列になり、賑わいを見せておりました。



新嘗祭

十一月二十三日



秋の稔りに感謝し、今年の初物を神様に食して頂き、御皇室の御安泰・併せて国家の安泰を祈願いたしました。

本年も神社境内の「神饌田」にて実りました初穂は、例年通り神前に奉りました。この初穂はご祈祷をお受けになられました方へのお下がりとしてお頒ちしております。

古くより、十一月二十三日は、宮中にて天皇陛下が民を代表し、神々に秋の収穫への感謝の誠を捧げる重義（新嘗祭）を行う大切な日であることは言うまでもなく、現在も祝祭日として定められております。

七五三参り

十一月中

十月も半ばを過ぎると、七五三参りの姿が見え始め、十一月に入るとその姿は日毎に増し、多くのご家族が訪れました。

中でも、十五日近くの土曜・日曜日ともなりますと、何十組ものご家族が参拝になり、境内特設のスマートボールに興じる子供たちの元気な声、そして参道脇の七五三看板前での参拝記念撮影も順番待ちと、境内は終日賑わいを見せておりました。

また着慣れぬ袴や着物、そして足袋に草履と艶やかながらも辿々しく歩く姿と、それを見守るご家族の暖かい眼差しは、とても心温まる光景でございました。



諸祭典(抜粋)

月次祭 毎月一日二十日

参拝見学



七月二十三日、(株)三五(愛知県みよし市)の社員の皆様が研修旅行の一環として当社にお立ち寄りになりました。

一時節柄暑い時期ではございましたが、境内絵馬堂前の木陰にて当神社の由緒や御利益・社殿等の説明並びに質問会が行われました。その後、しばし境内で過ごされたの地に向かわれました。

尚、社頭のご案内も行っておりますので、ご希望の場合は事前にご相談下さい。(繁務時不可)

御首神社ホームページ

神職への質問Q&A

問 知り合いが内臓系の病気にかかり、今度手術を受ける事になりました。御首神社には良く参拝しているのですが、病氣平癒のご祈禱をお願いしようか悩んでいるのですが、首から上の願いではないのご祈禱を受けてもご利益は無いのでしょうか？

答 当社は、首上の大神様として広く崇敬を集めており、首上に関するご祈願で参拝になられる方は大変多くみえます。また安産・初宮詣り・誕生祭等の人生儀礼を始め家内安全や厄払い、交通安全などに至るまで多種多様のご祈願も同様に願われております。

よって「首上の願い事に特に霊験あらたか」であり、首上以外の願いにもご神徳を戴けますので、安心してお参り下さい。

まとめ 全国各地に数多くの神社が鎮まりますが、何れの神社に於いても、真心を込めて参拝をして「ご利益が無い、無意味である」と言うことは決してございません。必ずや大なり小なり神様のお力を頂戴出来ることと存じます。

また、ご参拝の際には、神社の規模やご神徳ご利益に必要以上に捕らわれず、広い清らかな気持ちでご参拝なさる事がとても大切であると感じます。

崇敬会からのご奉納

一、御首神社鳥居前特大幟 (一対)



一、末廣稻荷神社幟 (二対)



一、灰皿「屋外用」 (二台)



「ご奉納ありがとうございました。」

神社について

『社殿』

神社における建築様式は様々ございますが、「本殿・幣殿・拝殿」と称する建物を配置する形態が一般的で、当社もそのような造りとなっております。

「本殿」とは、神様がお鎮まりになられている場所であり、神社において最も神聖で重要な場所になります。そのため、その周囲を瑞垣（みずがき）と呼ばれる垣根を以て進入を妨げる造りになっております。ただし、御神体が山や岩である場合は、御本殿自体が存在しない神社もございます。

次に「幣殿（へいでん）」です。

聞きなれない言葉と感じられたと思います。本殿と拝殿の間に位置し、両殿を繋ぐような形で作られる事が多く、役割としては幣帛等（神様に奉献する物全般）を奉（たてまつ）る社殿になります。実際は祭儀を執り行う場として使われる場合が殆どでありましょう。当社では全ての祭典が幣殿にて執り行われております。

次に「拝殿」ですが、読んで字の如く拝むための社殿になります。古くはこのような建物は無く、本殿（古くは祭壇）の前の露天で神事が営まれておりましたが、次第

に天候に左右されにくい本殿の向拝の下や、少し離れた楼門や回廊等の一部を用いていたようですが後に専用の建物として確立します。この拝殿と言う名称につきましては変遷があり、平安時代末期頃には、神仏習合の影響を受け「礼殿（らいでん）」、鎌倉時代には「拝殿」、室町時代には「拝屋（はいのや）」と称され、再び拝殿になります。

一方、各殿の建築仕様も「本殿・幣殿・拝殿」のそれぞれの建造物が一直線に独立して配置される仕様もあれば、気候風土や立地条件等を鑑み、各社殿の機能と祭典上の利便を圧縮し、一つの社殿に纏めたお社も当社を含め全国に数多くございます。

皆さんも多くの神社に参拝になる機会があると思いますが、先々で社殿を拝し、本殿・幣殿・拝殿と確認してみるのも参拝の楽しみの一つになるかもしれません。

今回は、「本殿・幣殿・拝殿」をご案内いたしました。今回は境内社を取り上げる予定です。今回でシリーズ三回目になります。境内を散策するイメージを思い浮かべて戴けると幸いです。

崇敬会入会のご案内

本会は、「古来首より上の諸病を憂うる者此の社に願えば靈験あらたか」と伝わりし御首神社の御神徳に感謝し、「ご家族の諸病平癒・無病息災・家内安全生業繁栄並びに子孫繁栄を願う崇敬者の会として設立されました。

入会を望まれます方は、社務所までご一報下さい。早々に案内資料をご用意させていただきます。

会員の特典（抜粋）

- ・入会報告祭の実施
- ・誕生特別祈禱の実施及び祈禱神符の授与
- ・主要祭典のご案内
- ・昇殿参拝

会員の種類と年会費

個人	三千元
家族	五千元
特別	一万円
法人	二万円
名誉	三万円

お問い合わせ先
神社社務所まで
〇五八四 九一 三七〇〇



御首神社航空写真 平成元年撮影

祭事案内

年越大祓

十二月三十日



夏越大祓とは異なり、殿内にて神職全員が大祓詞を奏上致し、その後境内設置の忌み火籠にて、皆様が罪穢れを託されました「人形」をお焚き上げいたします。

事前のお申込が必要です。十一月末より受付いたしております。

元旦祭

一月一日

一年で一番初めの祭典です。毎年参道には、初詣のための行列が出来、除夜の鐘の音と共に祭典が厳かに斎行されます。

左義長

一月十五日

一年間ご守護戴きましたご神札や御守り又注連縄・お正月の注連飾りを忌み火にて焚き上げます。

浄火祭

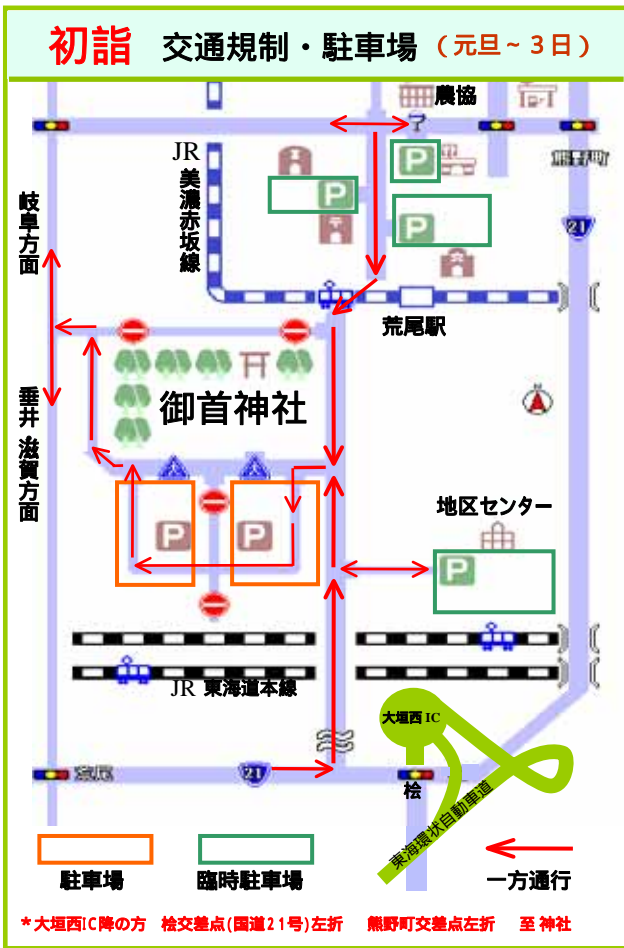
二月三日

ご祈禱をお受けになりました方々の金幣串や紅白串をはじめ、皆様が願いを託し奉納されました絵馬や帽子を忌み火にてお焚き上げいたし、心願成就・厄払いを願い執り行われます。

神事は、午前十時から境内に掘られた大きな穴（火炉）前にて斎行され、白装束の神職の他に、厄男四名が神事にあたります。

尚、神事終了後より午前中に限り、ご自宅で不要となりました帽子

子の炊き上げが可能となっております。毎年多くの参拝者がお訪れになります。



八方ふさぎりの皆さん

平成29年 八方ふさがり早見表

方位図 高島暦参考	昭和	11年生
		20年生
		29年生
		38年生
		47年生
	平成	56年生
		2年生
		11年生
		20年生
		抜粹

ご祈禱をお受けになり 健康な毎日をお過ごしませう

平成29年 賀寿早見表 (数え歳)

古稀	70歳	昭和 23年生
喜寿	77歳	昭和 16年生
傘寿	80歳	昭和 13年生
米寿	88歳	昭和 5年生
卒寿	90歳	昭和 3年生
白寿	99歳	大正 8年生

としばら 歳祓いの皆さん

祭事案内

祈年祭

二月十九日

「としごひのまつり」とも呼ばれますが、一年間の五穀豊穡を祈願する大切な祭典であり、三大祭（例大祭・新嘗祭）の一つに数えられます。氏子総代参列の元で肅々と斎行されます。

例大祭

四月二日

一年に一度、当社で最も大きな祭典です。当日は朝一番に子供神輿の発輿祭が行われ、元気いっぱいの子供神輿が町内を練り歩きます。（雨天中止）

また、昼過ぎには境内の特設舞台で、氏子地域の子ども達による「打ち囃子」が披露されます。

神事は午後三時から始まり、神社より献幣使をお迎えし、舞楽（蘭陵王）の奉納も行われ、盛大に斎行されます。

諸祭典(抜粋)

月次祭

鎌山神社例祭

南宮神社例祭

お田植え祭

農休祭

新年 授与品・縁起物



初穂料八〇〇円

病気平癒御守

新 お守りのご紹介



祈願干支絵馬
初穂料 500円



さくら鈴
初穂料 500円



干支土鈴
初穂料 800円

* 他にも多数の授与品・縁起物がございます *

平成二十九年

初祈祷のご案内



初祈祷は、元旦祭
終了後（元旦午前零
時半頃）よりお仕え
いたしております。

毎年、多数の皆様が我先にと御祈禱（家内安全・商売繁盛・各種受験合格・病気平癒祈願など）をお受けになられております。

輝かしい年の初めに、ご家族お揃いでお参り下さい。

正月御供 鏡餅料 受付中です

正月御供（一月初旬迄 受付）

- ・ 酒類・お餅・米・野菜・果物
- ・ 菓子など

鏡餅料（十二月末迄 受付）



・ 正月三日間、鏡餅を御神前にお供えいたします。千円以上のお申込となっております。

* お下がりが授与されます。
* 郵送・書留等による申込受付中。詳細は社務所まで。

平成29年 厄年表 (数え歳)

	歳	前厄	本厄	後厄
男	61歳	昭和33年生	昭和32年生	昭和31年生
	42歳	昭和52年生	昭和51年生	昭和50年生
	25歳	平成6年生	平成5年生	平成4年生

	歳	前厄	本厄	後厄
女	37歳	昭和57年生	昭和56年生	昭和55年生
	33歳	昭和61年生	昭和60年生	昭和59年生
	19歳	平成12年生	平成11年生	平成10年生

毎年、編集後記
毎年、みくびだよりの編集を行っている
と気づきます。今年も残り僅かである
皆様良いお年をお迎え下さい。

岐阜県大垣市荒尾町二二八三の一
御首神社社務所
Eメール syamsyo@mikubi.or.jp
TEL(〇五八四九一 三三〇〇)